

青梅のにじ

〈発行〉

日本基督教団 隠退教職ホーム
にじのいえ信愛荘
運営委員会 須藤 繁

〒198-0052 東京都青梅市長淵2-687
電話：0428-22-2283 FAX：0428-22-2317
Eメール：nijinoiesinaiso@wish.ocn.ne.jp

振替口座番号 00120-3-358467

加入者名：にじのいえ信愛荘

神の家族 にじのいえ信愛荘

にじのいえ信愛荘運営委員長 鈴木 功男



恒例になりましたチャリティコンサートは、「トランペットとパイプオルガンによるにじのいえ信愛荘を支えるためのチャリティコンサート」とキャッチフレーズが付けられました。

2015年11月7日満員の青山学院ガウチャーホールに響いたのは、トランペットとオルガンの絶妙な響き、まるで、主の復活を告げ知らせるファンファーレのようであったり、マリアが歌うかのような子守歌の調べに変わったたり、わくわく、うっとりコンサートのでした。

にじのいえ信愛荘から何人かの先生方がこられて一緒に楽しんでおられました。

準備にあたった募金委員会は、日頃ご支援いただいている皆様がお客様ですので、心からの感謝をこめて準備を重ねてきました。青山学院のご協力を頂いたことは大きな後押しになりました。

◇◇◇
「信愛荘」は56年前、「にじのいえ」は42年前に設立され、合併して5年になります。

ラクーア伝道が行われているころ、1957年10月東京教区社会部委員会で「隠退教職及び配偶者のための老人ホーム建設」について提案されたことが発端となりました。2年後の1959年10月26日には落成感謝式が執り行われました。

一方「にじのいえ」は、1973年婦人献身者ホームとして全国教会婦人会連合によって千葉県館山市に設立されました。

両者共通の目的は、主からの召命に従い生涯を伝道牧会に捧げられた牧師とその配偶者が、引退後を平安のうちに過ごすことができるよう備えられたものでした。

さまざまな経過を経て、2009年プロテスタント日本伝道150年記念事業として、両者の合併となりました。

◇◇◇

現在、21名の隠退教職と配偶者がお住まいになっておられ、「ここは神の家族です」とよくおっしゃいます。

管理運営は、職員スタッフ、ボランティア、パート、運営委員会合わせて約40名の組織によって日夜お世話をさせていただいております。

宗教法人日本基督教団の中の位置付けとしては、教団各種センターの一員です。運営委員会は教団、全国教会婦人会連合、東京教区、西東京教区の4つの推薦母体によって構成されています。

にじのいえ信愛荘は、全国の教会、学校、団体などからの尊い献金によって支えられています。心からの感謝を申し上げなければなりません。そうしたご支援の中で、教団にあらわれている教勢の姿がそのまま反映される形で、この荘にもあらわれていることは事実です。

運営委員会の課題は、半世紀を超える先達の礎の上に新たな課題にどう立ち向かうか、荘の機能面、様態面、さまざまな角度からの具体的な展開が期待されます。

復活の主に出会って、心が燃えた弟子のように、主によって心が燃やされた皆様のお支えがあつてこそ、「にじのいえ信愛荘」が、主を証しする業として整えていただけると信じ、願っております。感謝しつつ。



クリスマス特集

独り子をお与えになるほど

ヨハネ福音書3章16節



吉川 幸子

「神は、その独り子をお与えになったほどに、世を愛された。独り子を信じる者がひとりも滅びないで永遠の命を得るためである。」(3章16節)

主イエス・キリストのご降誕を喜び、その恵みと平安を祈ります。

クリスマスの時期に限らず、繰り返し読まれる有名な箇所の一つです。しかし、ヨハネは他の福音書のように、救い主誕生の次第を述べるのではなく、「何が起ったのか」その出来事の意味を記しました。主イエス派遣の目的と結果との完結な宣言です。この一節は宗教改革者ルターをして「小さな福音書」と言わしめたほど、聖書全巻の要約ともいべき言葉です。

「神はその独り子をお与えになったほどに、世を愛されました。彼を信じる者が一人も滅びないで永遠の命を得るためです」と。

クリスマスは、神の愛の出来事です。神が愛されたのは「世」です。永遠の命の根拠は、神の、世に対する徹底的な愛に他なりません。このことによって、神の「私への愛」を知るのです。そしてこれが、ナザレのイエスにおいて現れ、歴史の現実となったのがクリスマスです。



天使と羊飼いの 渡辺禎雄版画

神が世を愛されたのは、世が良いい世界だからではありません。確かに、最初に神が創造された世は極めて良かった。人は神にかたどって造られ、命の息を吹

き入れられた。そして、他の造られたものすべてを治めよと、祝福をもって世に送り出されたのです。(創世記1章より)

しかし、聖書はこの世が問題に満ちた世であることを見抜いています。ヨハネも、クリスマスのことを記した他の箇所でも、御子は「自分の民の所へ来たが、民は受け入れなかった」(ヨハネ福音書1章11節)と記しています。

この世は、創造主なる神を知ろうとせず、賜物の命を私物化し、自分の意のままに生きようとする罪と死の中にありました。このような世であるにも拘らず、神はこれを限りなく愛し、人が罪の中に滅んでゆくのを見過ごしにされません。

独り子をお与えになったほどに神に敵対する世を愛するために、その罪を厳しく裁かねばなりません。神はこの裁きを、この世に生きるひとりの人間となられたご自身の御子に下されたのです。即ち、人として私たちの中に来られた御子イエスを裁かれました。この世が神によって愛されるためです。

こうして、神は、世のためにご自分の御子を犠牲にされました。神の固いご意志です。

御子は、父なる神のご意志に従い、人間としてこの世に來られたその初めの姿は、飼葉桶に眠る貧しく弱い幼子に示されています。ここに神の救いを見る者は幸いです。

ここに愛がある

クリスマスは、神の御子が世の罪の贖いのために十字架で死ぬ歩みの第一歩だったのです。

私たちが神を愛したのではなく、神が私たちを愛してくださって、私たちの罪のための贖いの供え物として、御子をお遣わしになった。ここに愛があります。

「友のために自分の命を捨てること、これ以上に大きな愛はない」(ヨハネ福音書15章13節)との主の言葉を新たに思います。

『よい子になれない私でも神さまは愛してください』
って、イエスさまのおことば。

(讃美歌21-60)

(にじのいえ信愛荘在荘)



クリスマスの思い出

アトランタ・ジョージア でのクリスマス



高崎 ワカ

夫はミシガン
州ホランドにある

アメリカ改革派教会のウェスタン神学大学院に学位を取得するために留学した。私も同行した。1974年、二度目のクリスマスはアトランタ・ジョージアに決めた。アトランタは「風と共に去りぬ」の舞台になった所であるが、アメリカのアテネと言われる大学の街でもある。私たちはエモリー大学のキャンパスの中にある留学生ハウスに滞在した。10日間滞在出来るが一週間はハウスのプログラムに参加する義務がある。南部は圧倒的にバプテスト教会が多い。あとは長老派と会衆派が合体したpresbyterian & congregational Churchが多かった。黒人のみの教会もあったが、いずれも大きく美しい会堂ばかりであった。このプログラムに参加できるのは牧師と神学生に限られてい

た。韓国、香港、インド、スイス、ドイツ、アフリカの中の四ヶ国と日本と多彩であった。

ここでの朝食は各自で作る。昼食と夕食は各教会からの招待で婦人達が心を込めてもてなしてくださった。

ツアーはコロンビア大学の神学部が始まり、七つの教派で作られたセオロジカルセンターとマルチン・ルーサー・キング牧師の足跡を訪ねた。この時大統領候補になったジェシー・ジャクソン牧師と出会った。男子修道院を見学した時、一部女子禁制の所があり、一人の修道士がユーモアたっぷりに私達の相手をしてくださった。併設されているレストランはすべて修道士によるものであるが、味は一流である。とてもおいしかった。

キャロリングや、いくつかのパーティに招かれたがいずれもスマートであった。何よりもキャンドルサーヴィスとクリスマス礼拝は荘厳な中にクワイヤが歌う讃美はパイプオルガンと響き合い、イエス・キリストのご降誕を祝うのにふさわしかった。

ここでの数々の体験、思わぬ人々との再会、ヒルズの街の崖登り等、楽しい思い出に感謝。
(にじのいえ信愛荘在荘)

クリスマスの思い出によせて

「キリストは 私を慈しみ給う」



山添 和加

今から60年前
のクリスマス

は、私の人生の第2章の始まりでした。と申しますのは、1955年12月25日(日)クリスマス礼拝において洗礼を授けられたのです。22歳の時でした。

私は小学校1年生のときに母を亡くし、19歳のときに父を亡くしました。しかし祖母が居ましたので、母親がわりに家庭を守ってくれました。思い出すと祖母は孫3人姉妹を大切に育ててくれましたことに感謝の念を禁じ得ません。

私は高卒後、将来は医者になって人を助ける仕事につきたいとの思いを持ち、大学の医科進学コースに入學し、寮生活をしていました。2年生の初夏に突然の電話で父の死を知らされ私は人生航路の急転換を迫られました。悲しいという気持ちよりこれから生活をどうすれば良いのかということに思いをめぐらす日々でした。3人姉妹の長女である私は、経済的にも家族のためにも、医学への道を断念

せざるを得ないと考えていた時父が勤めていた銀行に勤めてみないかとのおたまたかい申し出をいただきました。本当に有難いことでした。

学校は翌年3月まで続けて短大卒の単位を取得して退学し、4月から社会人となりました。家族は祖母と中高生の二人の妹で、住宅難の時代で間借り人を置いたりして生活は守られました。周囲の方々のご配慮もあり感謝でした。

そのような時に私の心は「自分は何のために生まれてきたのか、何のために生きているのか」という問いであって、その答えを求めて、いくつかの教会に行ったのですが、私の心の叫びには答えが与えられませんでした。

ふっと思い出したのは、幼い頃に住んでいた所の近くに教会があると話していた父の言葉でした。勤務の帰りに途中下車をして品川教会の扉をたたきました。

そこに私の求めが答えられると感じて、約1年の求道者としての講座を受け、クリスマスにおいて洗礼を授かり、主イエスの弟子となりました。サタンの誘いに負けてしまいそうな時もありましたが、主に赦され慈しみを受けて、今私は感謝です。

(にじのいえ信愛荘在荘)

信愛荘の思い出



金井 和子

私が信愛荘に入荘したのは、1990年の7月でした。もう25年も前のことです。

信愛荘の周囲は家も少なく、訪れる人は皆、静かなよい環境ですね、小さな川のせせらぎの音にも心が安まるようだと感動しておられました。

荘長もまた穏やかな方で、白鷺教会牧師の竹井祐吉先生でした。主事は木村正太郎さん。荘母は本田愛子さん。副荘母に座間さんと長谷川さんが働いておられました。3年位後になって本田さんは引退されて名誉荘母として荘に残り、新しく管理人として菅原長佐さんご夫妻が来られ、奥様の訓子さんは荘母として、厨房もまかされておいしい食事を作ってくださいました。菅原管理人さんは、よく気がつく働き者で、親切でやさしい人柄でしたので、在荘者の皆さんから慕われていました。

いつも荘の内外を掃除してくださり清潔で助かりました。

荘を訪問してくださる方も多く、日時が重なるので主事さんと荘母さんが調整していたようです。訪問は、各支区の婦人部や教会の婦人会、音楽関係のグループ、新堀ギター、ハンドベルコンサートの方々、クリスマスチャンスクールの子どもさんや、幼稚園の可愛いお友だちも…。

その頃ご一緒でした荘の方々は、一番年長が保阪松太郎先生で、よく買物や散歩に出かけられ、次の土合次郎先生は百歳までお元気で、80歳を過ぎてからワープロを使われて、ご自分の証しや、近況などを綴った「青梅だより」を書いておられました。絵の大好きな星野先生と豊



食堂

夫人。いつも穏やかな原彰先生と智恵子夫人。田川勲先生とくに夫人。藤田亀士郎先生と小枝子夫人。神山良雄先生ときゑ先生。そして私達が河村孝先生の隣の部屋に移ってからは、大変仲良しになり、紙芝居の代役をやらされたことも今は懐かしい思い出です。

管理人さんは、一人一人のために気を使ってください、病院の送迎や、春秋のバスハイク、菖蒲園やハイキングなど、皆さんを外へ連れ出して楽しませてくださいました。私は、夫の金井清の介護のため、あまり参加はできませんでしたが、いつもその時の写真を見せてくださったり、夫の体調の良い時には、後日連れていってくださいました。

今回も、この10年間の写真をたくさん持ってきてくださり、忘れていたことも思い出し、懐かしく拝見しました。

最近では雪があまり降りませんが、当時は雪が多く、菅原さんがいつも雪かきをしていた姿が目につかびます。

10年前、立派な八角堂ホールが建てられ、現在は便利になり

ましたが、あの頃は食堂で訪問客をお迎えし、一緒に食事をしたり、讃美をしたり歓談をしていました。

裏庭はキウイ棚や、土合先生が手入れされていた畠があり、お花畑には色とりどりのチューリップやラベンダー、藤の花などが咲きました。そういえば池田貞子先生が入荘されてすぐ秋のバスハイクがあり、その時は富士山の五合目までバスが登るので参加されました。今でもよくそのお話が出ます。

今は体調があまり優れないので静かに感謝と祈りの生活をしている毎日です。荘の皆さんとも仲良くしていただき本当に幸せです。

平安

(にじのいえ信愛荘在荘)

文責 石井泰子



キウイ棚

「にじのいえ」創立について — 30000円の献金のこと —



飛田 悦子

1966年のことですから、50年近くも前の話でございます。京都で、関西6教区の婦人会の役員の研修会が持たれた時の話です。

3日間位の充実した研修会で



1995年ころのにじのいえ全景

したが、その最後の日にいくつかの分団に分かれて、集会のしめくくりがなされました。

私は一つの分団の責任者でしたが、若い人の中から議長と書記を選んで会を進めました。そして、そろそろ会が終わりに近づきました時、一人のご老人だと当時の私には思われた婦人が、関西なまりで、次のような発言をされたのです。それは「今こ

でお話し合いされたよい話（註・婦人献身者のためのホーム設立提案）は、それぞれの教会に帰ると皆教会のことで忙しく、この話は立ち消えになってしまいました。それでは残念です。今日のあかしとして献金をしまししょう。」ということになりました。若い議長さんと書記さんは落ちて、自分の紙袋をあけて廻し始められたのです。私も、なにがしのものを入れたとは思いますが、心ここにあらずでした。やっと終って祈りをささげる時には、もう全体会場では、閉会式の讃美歌がうたわれておりました。

この時の30000円余の献金は、委員の手をへて本部の事務所にあずけられたそうです。本部



礼拝堂

では「やっかいなものをあずかった」とのかげの声もあつたと聞きました。30000円なにがしで、婦人教職ホームとは、夢のまた夢でございますから。でも、事務所では指定献金として、大切に保管しておられました。

ところが、その少し後、アメリカのメソジスト教会婦人部から、同じ趣旨の献金（註・2万ドル）がとどけられたことをあとで聞きました。神様の時があつたのです。

その後委員の方々は、ホームにふさわしい場所を探して歩かれたと聞いております。

そして、ついに千葉県の房総半島の先端、館山の「海の向こうはアメリカです」という処にホームが建てられた夕方、雨上がり

でしたでしょうか、太平洋の海から三浦半島にかけて、大きな『虹』がかかっていたそうでございます。「にじのいえ」命名の由来です。

館山の「にじのいえ」には、礼拝堂、婦人教職と教職夫人の居室、食堂と客室、そして、数十人が宿泊できる研修棟がありました。夏には教会の夏期学校に、また信徒の修養会にも利用されていきました。毎週、土曜子ども聖書会が開かれ、市街地から少し離れておりましたので、町の子どもは来ませんでした。近くの養護施設の子どもが、土曜日の昼は幼小組、夜は中高生が熱心に通って来ました。

やがて、私共の祈りが実って南房教会が近くの良い場所に立てられ、今日に至って居ります。

「にじのいえ」が、東京の歴史ある青梅の「信愛荘」と合併して「にじのいえ信愛荘」となり、私は2010年6月末、館山から青梅の地に引越して参りました。「にじのいえ」に入居してからは、今年で27年が経ちます。感謝の日々を過ごしております。（2013記）

（にじのいえ信愛荘在荘）

近況報告

荘長 深山 祐

〈朝の礼拝〉

にじのいえ信愛荘の一日は、7時半のチャイムの合図で、食堂で行われる朝の礼拝と共に始まる。その日の礼拝当番が選んだ讃美歌を歌い、次に「日毎の糧」による聖書箇所を読み、祈りで終わる。朝拝後、スタッフの助けを受け、食卓に食事が並べられると、礼拝当番の食前感謝の祈りが再びあり朝食が始まる。三度三度の食事は、今は外部委託ではあるが、厨房で働かれる方々は皆、昔からの顔なじみで、心を込めて用意してくださる食事を感じていただく。朝昼夕の食事時に、スタッフからの連絡事項があり、食堂で過ごす時はお互いのコミュニケーションをとる大切な機会ともなる。

〈主日礼拝〉

朝拝と並び、主日礼拝は、そのために、荘が存在する理由の大切な行事である。説教者との連絡調整等に当たられる礼拝委員、奏楽者、献金当番者等々の

ご奉仕により、荘の礼拝堂にて10時半から行われる主日礼拝は、毎月一度、説教・奏楽の奉仕に当たられる森優牧師・園子夫人、武田英夫牧師・陽子夫人、渡辺正男牧師・黎子夫人に加え、竹井祐吉元荘長、辻哲子牧師、椿信子牧師、飯田瑞穂牧師、深山正子牧師、吉川幸子牧師の方々が交代で担当している。日曜の朝、遠方より来荘されご奉仕下さることをここに改めて感謝申し上げます。

〈誕生日会・相談会〉

毎月、最終の月曜の昼食時に荘員、職員・パート、厨房の全員参加の誕生日会が祝われる。当日、特別な御馳走が食卓に調えられ、松村施設長の司会・開会祈祷に続き、その月の誕生日者の愛唱讃美歌を歌い、続いて、誕生日を迎えられた方の感話が述べられ、最後に荘を代表し、荘長から聖書のみ言葉と添え書きを記した誕生日カードをお渡しし、閉会祈祷で終える。その後、休憩を挟んで、その月の相談会が開かれる。

最後に、2年余り、荘のため献身的に働かれた大野るり子介護主任が一身上の理由で九月末

を以てお辞めになり、後任を募集中です。なお、詳細は荘にお問い合わせ下さい。全国の諸教会、諸団体、主にあるみなさまのお支えを感謝しつつ。



◆自己紹介

入荘を許されて

井柳福次郎

みどり

主の聖名を崇めます。

この度、にじのいえ信愛荘に入荘を許され、職員の方々、ご在荘の皆様、奉仕の方々に温かく迎えられ感謝です。

福次郎は、本所緑星教会を経て、美竹教会（浅野順一牧師・平野保副牧師）のご指導のもと、みどりは長原教会・みぎわ愛児園（山本喜蔵牧師夫妻）で働きつつ、日本聖書神学校（校長・金井為一郎）に入学し、二人卒業、福次郎は九州教区・荒尾教会に赴任して伝道活動。みどりはみぎわ学園で働く中で結婚式を美竹教会で挙げました。その後荒尾教会のめぐみ幼稚園で共に働き、2年後、中部教区・鳥羽教会に転任し、7年間で土地購入と会堂建築を成し、次の四日市教会・付属幼稚園で伝道牧会30年、隠退。その後福次郎は無牧教会の講壇奉仕に、みどりは3幼稚園園長を務め、本年隠退。

ちなみに、みどりの姉えみは千葉勝夫（千葉儀一牧師夫妻長男）の妻。父母は信愛荘で召天。

「にじのいえ信愛荘」の 会計を担当して

事務長 濱田 繁

にじのいえ信愛荘の運営は、全国の教会、伝道所、教会婦人会、キリスト教系の学校、団体からの熱い祈りと尊い献金によって支えられています。また、東京教区、西東京教区、婦人会連合、「隠退教師を支える運動」の協力金にも支えられています。感謝し、厚く御礼申し上げます。

私は荘に勤務し始めて4年が経ちました。勤務の日は、朝出勤するのが楽しみです。職場は、和やかで楽しく朝の祈りによって始まり、ミーティングを行います。今日の荘の行事、荘員の予定（病院の送迎、介護サービス）各目の予定の確認を行い、一日が始まります。

荘の年間収支報告は、2013年、2014年連続して、若干の赤字となりました。にじのいえ信愛荘運営委員会（以下運営委員会）では、諸物価の高騰・電気代の値上げもあり、荘費を4月から5千円値上げさせていただきました。次に、運営委員会では赤字を解消すべく、「荘の案内」を年金局便りに同封し、又、

「入荘の案内」を教団新報に掲載しました結果、問合せがあり、空き部屋が解消しつつあります。

ところで、全国の教会員の高齢化に伴い、献金者の減少が続いております。しかし、そのような中にあっても、教会、婦人会、教会員の熱い祈りと尊い献金によって、今年度2015年9月までは、前年度を上回っており感謝です。

これからも、荘の運営が全国の皆様からのお祈りとご支援によって支えられていますことを感謝して、努力してまいります。

チャリティコンサート報告

募金小委員会 西村 佳子

ある教会で好評を得たコンサートがきっかけで、今年はトランペットとパイプオルガンの演奏を企画しました。11月7日（土）、黄葉した銀杏並木の美しい青山学院・ガウチャー礼拝堂、時々秋陽も射す曇り空の中、開場一時間も前からお越し下さる方もあり、開演時にはほぼ満席（580名）となりました。

トランペットの山本英助先生（ドイツフィルハーモニー首席奏者を経て現在国立音大教授）と湯

口依子氏（芸大オルガン科大学院終了、ドイツ留学後青学短大講師・教会オルガニスト）の共演は、海外のみならず国内でも好評を博しておられます。

礼拝堂一杯にトランペットの音が鳴り響き、パイプオルガンとの共演がこれほどマツチするかと驚き、聴き入りました。太さの異なるトランペットを吹き換えての温かく柔らかな音色に心慰められ、待降節に因んだ選曲の数々、またアンコールの「鳥のうた」「マリアの子守唄」に惜しみない拍手が続きました。今回、比較的男性の聴衆が多かったのも、楽器トランペット故かかもしれません。また楽しんで下さったのは、「口唇が痛み長く吹き続けられない」というトランペット特有の宿命から、演奏者が曲の解説やバツハの逸話など、ユーモアを交えて語ってくださったことでした。

「いつでも『にじのいえ信愛荘』に伺って演奏しますよ。」とお言葉を残して帰られたお二人の今後の演奏活動に神の祝福が増し加えられますように。

今年も青山学院大学のご厚意を受け、およそ125万円（11月

9日現在）の収益を賜ることができました。ご協力・ご来場頂きました皆様にご心から感謝申し上げます。



維持献金



「にじのいえ信愛荘」を今後も継続的に維持、運営していくために一人でも多くの皆さまからの維持献金のご協力をお願いしています。専用の献金袋（個人）もありますのでご利用の上、各教会でまとめてご送金ください。また、クリスマス献金もなにとぞご協力くださいますよう、よろしく願い申し上げます。

・振込口座番号

001200-3-358467

振込用紙／専用献金袋は

にじのいえ信愛荘事務局まで

TEL 0428-22-22283

莊日記



施設長 松村 誠一

●2015年5月

5日(火)防虫対策・風呂水漏れ工事
7日(木)お茶会(24名)
11日(月)スタッフ会
防犯カメラ設置
18日(月)会計監査
19日(火)第2回クリスマス準備会
21日(木)にじのいえ信愛荘運営委員

員会

25日(月)誕生会 相談会
27日(水)東村山教会来訪
28日(木)井上医院健診
29日(金)南三鷹教会来訪

●2015年6月

1日(月)お茶会(24名)
5日(金)吹上菖蒲公園(14名)
8日(月)スタッフ会
11日(木)めぐみ幼稚園来訪
14日(日)河辺伝道所との合同礼拝
16日(火)井上医院健診
17日(水)全国教会婦人会連合中央委員来訪(6名)
24日(水)地下タンク検査
29日(月)誕生会・相談会

●2015年7月

2日(木)経堂緑岡教会来訪
6日(月)スタッフ会・お茶会(27名)

9日(木)第1回にじのいえ信愛荘
将来計画委員会

20日(月)防災訓練(大雨・熱中症)

消防立入検査(5年に一度)

21日(火)飛田師リハビリのため梅

の園へ入所

23日(木)井上医院健診

24日(金)阿部和子姉入荘

27日(月)誕生会・相談会

31日(金)東京山手教会来訪(32名)

●2015年8月

10日(月)スタッフ会
食事改善検討会

12日(水)阿部和子姉多摩リハビリ

テーシヨン病院入院

19日(水)厨房・食堂の害虫駆除

20日(木)井上医院健診

27日(木)にじのいえ信愛荘運営委員

31日(月)誕生会・相談会

●2015年9月

3日(木)阿部和子姉梅の園入所

7日(月)お茶会(27名)

10日(木)第2回にじのいえ信愛荘

将来計画委員会

14日(月)スタッフ会

15日(火)めぐみ幼稚園敬老の日来

訪

23日(水)井柳福次郎師みどり姉夫

妻入荘

24日(木)井上医院健診

25日(金)漏電検査

27日(日)秋季墓前礼拝

28日(月)誕生会・相談会、大野るり

子介護主任送別会

30日(水)秋の庭木剪定植栽

●2015年10月

5日(月)お茶会(24名)

7日(水)全国教会婦人会連合会来訪

(33名)

9日(金)西東京教区婦人委員会来

訪

10日(土)大野るり子姉退職

12日(月)スタッフ会・井草教会来訪

13日(火)第3回にじのいえ信愛荘

計画委員会

16日(金)防災設備点検

19日(月)加藤鈴姉桜町病院入院

22日(木)井上医院健診・相愛教会来

訪・ポイント点検

24日(土)河辺伝道所CS来訪

26日(月)誕生会・相談会

A棟パネルヒーター修理

28日(水)富士見町教会来訪

31日(土)東支区壮年委員会来訪

なお、前回・前々回の荘日記で
紹介した土曜ボランティア
の方々以外に、朝岡健一兄、成
松三千子委員、池田節子姉、竹
田佳地子姉、会田玲子姉にも宿
泊ボランティアをご奉仕いた
だいています。

あとがき

第12号を全国の読者の皆さまに
お届けします。ご執筆くださいま
した皆さまには、心から感謝申し
上げます。

今回、誌面4頁には、在荘の金
井和子さんに合併以前の信愛荘を
語っていただきました。これは、
去る10月にじのいえ信愛荘運営
委員会での「信愛荘50年誌」編纂
チームが立ち上げられたことか
ら、プロローグ的な意味合いで企
画したものです。一方、5頁「に
じのいえ創立について」は、かれ
これ2年前に、飛田悦子先生から
お預かりしていた原稿です。

さて、この「青梅のにじ」はこれ
まで主として在荘の皆さまにご執
筆をお願いし、多彩に賜物を発揮
してくださいましたが、合併6年
後の現在、ご高齢や、ご体調を崩
されておられる方が少なくないこ
とを踏まえ、これまでの編集企画
を見直していく所存です。皆さま
には引き続きにじのいえ信愛荘へ
のご理解とご支援を賜りますよう
う、心よりお願い致します。

編集委員会

長・成松三千子 (柿ノ木坂教会)

石井泰子 (小松川教会)

岸 俊彦師 (経堂北教会)

黒沢咲子 (下谷教会)

阪口和美 (神奈川教会)